

## NO. 2342 【那岐山】

2012年11月24～25日（土・日）雨

参加者：嶋原（L）、片山（琴）、佐藤、岡本（記）

### <行程・時間>

24日 8時：新大阪→（宝塚IC→久世IC）→12時：勝山美し森ビジターセンター  
→13時15分星山山頂（35分発）→（院庄IC→津山→因幡街道）→16時  
30分：菩提寺（泊）

25日 6時30分：起床（8時25分発）→8：30分：登山口駐車場→10時：大  
神岩→11時那岐山（20分休憩）→13時：駐車場→（美作IC→吹田IC）  
16時10分：新大阪解散

元々23日日帰り予定であったが、諸般の事情により24日出発の1泊2日に変更、  
24日8時に新大阪に集合。連休の谷間ということもあり、大した渋滞もなく宝塚ICから  
中国道に入る。那岐山だけだと時間が余るので、今日は星山、明日は木々山へ行くこと  
とし、久世ICまで走る。久世から中国勝山を抜け、星山に向かう。途中、「御前酒」と  
かかれた大きな看板があり、何となくそれを気にしながら目的地へ向かう。

少し道に迷ったが、星山登山口という標識が何ヶ所もあり、無事登山口に到着。案内に  
は「勝山美しい森」と書かれてあり、ビジターセンターもある。何人かの人も訪れており、  
それなりの憩いの場所となっているようだ。

登山道は良く整備されており、各自思い思いに登り始める。が、若干1名足りなく、暫  
くして再出発となる。この辺りは、広葉樹を中心に綺麗に植林された森で、道の端には「還  
暦記念」や「結婚記念」の札の立てられた記念植樹も多く有る。今は、紅葉の時期が過ぎ、  
落葉を踏みしめての山歩きとなる。

頂上までの標高差は4～5百mであり、道もそれ程険しくも無い。落葉の中を暫く歩くと  
樹林帯に入り、そこを抜けると笹に囲まれた道になる。笹の背丈もそれ程高くなく、景  
色もよく見える。生憎の曇空ではあるが、中国山地の山々がよく見え、それなりの景色だ。  
最後に少し急な坂を上りきると、そこが山頂だ。

流石に「星山」と言われるだけのことはあり、展望は良い。一部モミの木が大きくなり  
過ぎ、眺望を遮断しているが、そんなことはお構いなく、軽く行動食とうめ～ジュースを  
飲む。

天気は余りよくないので、早々に下山する。途中、登りに迂回した前山に寄り、後は淡々と  
下る。徐々に霧雨のようなものが降り始め、駐車場に着いたところで雨となる。そこか  
ら、那岐山山麓の菩提寺に向かう。途中、再び御前酒の大きな看板を見つける。取りあえ  
ず車を停めてみるが、看板の横には仕舞た屋のような商売気のない古びた酒屋があるだけ  
だ。が、折角停めたこともあり、一番安い紙パック入りの御前酒一升を買う。

その後、道の駅で少し買い物をして院庄ICから高速に乗り、次の津山ICで下りる。  
そこから因幡街道と言われる国道を走る。道は空いており、思ったより早く菩提寺に着い  
た。早速テントを張れそうな場所を探し、まずは御前酒の試飲をする。さっぱりした味の、  
中々飲みやすい酒だ。鍋を囲んでいる内に、いつの間にか一升の酒が殆ど無くなっている。  
心地良くなったところで寝る。

翌朝、テントの脇を走る車の音で目が覚める。テントの中は既に明るくなっている。時計を見ると6時半近くになっていた。早速、昨日の鍋の残りにご飯を入れ、雑炊を作る。朝食が終わり、男性コンビだけ菩提寺に行き、鳴原さんは天然記念物のイチョウを見に行く。戻って来て那岐山へ向かう。

天気は快晴だ。よく冷えたこともあり、雲海が綺麗に見える。5分程走ると駐車場に着いた。トイレもあり、コースの案内板もきっちりあり、車も多く駐まっている。登山客も結構来ているようだ。ここからは、B・Cの2つのコースがある。Bコースは谷沿いコースで、Cコースは尾根コースになっている。我々は大神岩を通るCコースを登る。

道は良く整備されている。冷え込んだこともあり、所々で雲海が見える。紅葉の名残やススキも綺麗だ。大神岩からは尾根になり、中国山地の山々がよく見える。中々快適な登山道だ。と、思っていると、上半身裸のおっさんが下りてくる。近くにいた地元の登山客が、年がら年中、雪のある時でもこのスタイルで登っている有名人だそうで、テレビにも出たことがある、と言っていた。世の中には色々な人が居るものだ、と、感心している間に山頂らしき所に出る。

眺望の素晴らしい所で、中国山地が一望だ。東には、ここより少し高いピークがあり、人影の集まり具合から見ると、どうも山頂はそちらのようだ。足下に朽ちかけた小さな標識と三角点がある。そこには、ここは旧那岐山山頂(1,240m)で、現在は向こうの1,255mが山頂となっていると書かれてある。人はどうも高いところが好きなようだ。隣で山小屋の改修工事を行っている。結構地元にはファンが多いようだ。

取りあえず、現在の山頂を目指す。山頂までは4百メートル程あるが、全体が低い笹で覆われ、所々樹氷に覆われた灌木が茂っている。陽に照らされ綺麗に輝いているが、陽光と季節風の為、氷がどンドン落下している。もう少し早い時間に来れば、樹氷もっと綺麗だったに違いないと、少し悔やまれる。御前酒の所為か・・・

山頂は風が強く、寒い。遠くに大山や、山陰の海も見え、鳥取、兵庫、岡山の山々が一望だ。地元にはファンが多いのも納得できる。が、少し寒い。行動食を取り、早々に下山する。少し行くと、粘土質の、滑り易い、ドロドロの道となる。その中を何人もの学生位の若者が黙々と山小屋の改修用の木材を運んでいる。滑るのか、何人かのおしりは泥で真っ黒だ。

急な滑り易い坂道が中々終わらない。漸く鞍部に辿り着く。そこは、A・Bコースの分岐点になっており、ここに車が駐まっていて、ここから木材を運び上げているようだ。Aコースの菩提寺に抜けるには少し山を登らないといけない。あっさり、登りのないBコースを選ぶ。菩提寺のイチョウは、下山してから車で見に行けば良いということで決まりだ。

Bコースは殆どが樹林帯の谷筋の道だ。ここで、佐藤さんは、菩提寺のイチョウより葛城にある一言主神社のイチョウの方が立派に違いないと言い出す。鳴原さんは一言主神社のイチョウは知らない。が、結局、一言主神社のイチョウの方が立派だということで決着する。

駐車場の手前に「蛇淵の滝」があり、立ち寄る。滝そのものは大したことは無いが、紅葉の時期だと、日本庭園のような趣きのある雰囲気を楽しめそうな所だ。それを見た上で、そのまま大阪へ戻る。菩提寺に立ち寄らなかったお陰で、あまり渋滞に巻き込まれることなく帰ることが出来た。が、少し形は異なるが、大きさから言えばどうも菩提寺のイチョウの方に軍配が上がりそうだ。

(一言主神社のご神木)



(天然記念物の菩提寺のイチョウ)



以上